

2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部

言語コミュニケーション学域 「課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
言語コミュニケーション学域	4	3	2

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

第一次選考では、調査書、評定平均値、高校での活動と学びについての資料とエントリーシートを対象に審査を行いました。エントリーシートの内容については、言語コミュニケーション学域への志望動機や入学後の目標、将来の進路について、過去の活動や実績をふまえて明確かつ説得的に記述できているかを評価しました。

基本的なこととして、文の区切り方（読点の打ち場所）が適切か、内容に従った段落の分け方をしているかなども、評価の対象となることを忘れないでください。

(2) 解答状況

エントリーシートは、強い意欲を持って書かれているものから簡条書きレベルのものまで質量ともに差が見られました。また、大学のパンフレットやホームページに記載されていることをうわべだけで理解して、そこでの文言が透けて見えるような記述も散見されました。

自分のこれまでの活動や体験が言語コミュニケーション学域でのアカデミックな学びにどう繋がるのか、さらには将来の目標にどう結びつくのかについて、自分自身が考えを深めるとともに、その考えをどうすれば相手に伝えられるのか、「読み手意識」をもって言語化していく姿勢が望まれます。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

課題論文の内容における評価のポイントは次の3つです。

- ①課題文の内容や筆者の主張を的確に理解しているか。
- ②課題で指示された問題について、自分自身の言語表現活動や身の回りの言語的な事象と結びつけてとらえることができているか。
- ③自分の言葉で意見を明確に述べることができているか。

※これ以外にも、表現・表記において、論文として適切な語彙選択、段落意識も含めた文章の展開、主張を支えるための無理のない論述展開を作ることができているか、という点も評価に含めました。

(2) 解答状況

評価ポイント①については、今回出題した課題文の内容がかなり高度であったにもかかわらず、筆者の主張を概ね正しく読み取っていました。

評価ポイント②でも、今年度の問題文ではとくに「具体的な体験を交えて」といったような指示を出していなかったにもかかわらず、筆者の指摘が意味することに添った具体例を多くの受験生が挙げていました。その意味で、今回の受験生は全体的に優秀であったと考えます。しかしながら、設問の「誤解と了解を繰り返しながら納得を成り立たせていくこと」について単なる「誤解」(⇒ディスコミュニケーション)の事例を示すにとどまり、そうしたディスコミュニケーションからどうすることが、「誤解と了解を繰り返しながら納得」というプロセスを導くのか、というところまで論じられていない解答もありました。また、「認知的能力(考える力)」の具体的なイメージが十分に説明されていない解答もありました。言葉や表現のレベルではジェネレーション差や性差や文化差によってずれや誤解があったとしても、その誤解を互いに理解したうえで、そこからどのような了解を繰り返し互いに「納得」するに至る「コミュニケーション」を導くのか、またそれを可能とするために「考える力」とはどういったことを理解したうえで説明することが本課題のねらいです。全体的に優れた論考が多かったなかで合否を分けた要因の一つは、課題文に対するこうした高度な解釈と議論ができたかどうかであったと言えます。

最後の評価ポイント③については、ポイント②とのつながりが明確であるもの、つまり、自身の表現体験と本文とのつながりを十分理解したうえで筆者の問いかけを自分の言葉できちんと解釈できているものには説得力がありました。表現・表記では、使用語彙は概ね適切でした。ただ、文章の構成に対する意識が不十分なものや、論の展開に若干のずれが生じているものがありました。

(3) 試験(面接)内容

例年どおりですが、まず、本学域へ進学したい理由について、これまでの表現活動経験、大学で具体的に追究していきたいことなどをもとに語ってもらいました。また、大学で学ぼうとしていることが自分の将来設計にどのように関わるのかを、説明してもらいました。そのうえで、エントリーシートをもとに個別の質疑応答を行いました。課題論文に関しては、受験生各自の提示した具体的事例や意見をもとに、課題論文の解答で説明の具体性や説得力が乏しかったところを中心に、補足的な質問を行い、いわば課題論文での解答を補う機会を提示しました。その解答に対する面接官の疑問に対し、口頭でどの程度説得的に説明できるかを評価しました。

(4) 出題(面接)の意図

学問に対する積極性、真摯な態度、目的の明確さとそれに対するこれまでの取り組み、思考の論理性、自分の言葉で考えや思いを述べられるか、さらに「伝えたい」という意欲などを見ています。とくに課題論文に関しては、抽象的なテーマを具体化してわかりやすく論じる力と、またその逆に、事例を一般化して他の事象や領域に発展・応用させる力を見ました。こうした具体化と一般化を往復できる思考力を身につけられるように努めてください。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

これまでの音声や文章に関わる表現活動を、大学におけるアカデミックな実践や理論の学習のなかでどのように活かし展開するのか(できるのか)ということをしっかり考えてみましょう。また、大学での学びが、自分の将来の目標や生き方にどうつながるかということもイメージしながら勉強を重ね、さまざまな行動に移してもらいたいと思

います。

大学の学びは高校までの 9 教科の枠に収まるものではありません。広い視野で物事をとらえることができるよう、幅広く本を読み、人の話に耳を傾け、さまざまな機会をとらえて思考力や想像力、表現力を楽しみながら鍛えてください。とくに、自分自身がふだん興味を持って接しているトピックについては、他の人には見えない細かな相違点や自分なりの問いに対するこだわりを育て「興味・関心の解像度」を上げる工夫を心がけるとよいでしょう。

以上